

令和4年6月定例記者会見要旨(令和4年6月2日)

1. 有福市長が就任されてまもなく1年になります。この1年を振り返っての率直な感想などをお聞かせください。

5つの公約のうち、給食費無償化については今年度から実施できた。また、地元企業への優先発注とコミュニティバスの整備については、現在進めているところである。

市立体育館の空調整備、市民ホールの改築に合わせての外装工事、坂出市観光協会の一般社団法人化など、アフターコロナを見据えたさまざまな事業のために、走ってきた1年だった。

また、坂出のまちに人を呼び込み、市民の居場所づくりのために、駅前の複合施設の整備及び坂出緩衝緑地の整備を行っていく。

まちづくりにおいては、課題を的確に捉えた長期的視点に基づいて行う必要があり、行政のみならず、民間との連携による地域活力の向上が不可欠である。

そのためには、地域におけるさまざまな主体の意見を聴き、新たなまちづくりのビジョンを共有することが重要だ。今年度中には、坂出駅周辺再整備基本計画を策定する予定であり、6月中旬には、策定業務の受託業者を公募型プロポーザルにより決定する。並行して、市の部長級以上で構成する「坂出再生庁内検討委員会」において、現在ある施設等を含め、地域の価値を維持・向上させるための空間の形成とその在り方について検討していく。また、香川大学経済学部の古川尚幸教授をコーディネーターに迎え、市内4校の高校生、香川大学の学生、市の若手職員で構成する「さかいで未来会議」において、坂出のまちづくりを若者目線で自分のこととして考えてもらい、提案いただく。

また、まちづくりに関する学識経験者、各分野の有識者、関係行政機関等を委員とし、専門的知見から提言いただく「さかいで再生会議」を8月に立ち上げる予定であり、現在調整中である。